

3 (3) 長音 (ながい音) の指導 (7 時間)

ながい音とみじかい音... 1 時間 各段... 各 1 時間 (5 時間) 特別な書き方... 1 時間

あ段

の指導

右の絵を見せて、何かと問う。

「はと」「はあと」

ぼたん「・」とぼう「-」で表記させる。

次の図も同じようにする。

「おばさん」「おばあさん」

「はと」と「はあと」では、どの音がちがうか考えさせる。

「は」と「はあ」がちがう

「は」はみじかい音

「はあ」はながい音

「おばさん」と「おばあさん」も同様に する。

「はあ」とか「ばあ」とかは何の段のながい音？

あ段

「はあ」「ばあ」とのばすと「あ」の音が聞こえるから

「は」も「はあ」もながさのちがいはあるけれど、一つの音だ。

「は」は「は」と書く。では、「はあ」はどう書いたらいいだろう？

「はあ」と書く。

「は」の後に「あ」を書く。

「は」の後に「あ」をつける。

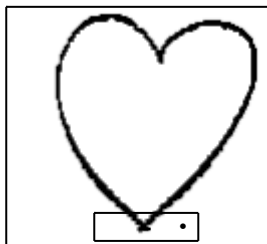
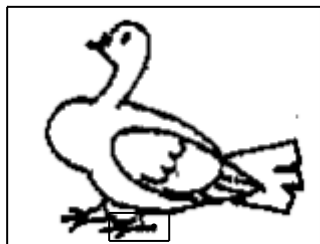
「-・」のところ「はあと」と書く。

「おばあさん」も同様にする。

「はあ」というのは、一つの音だけど、書く時には「は」の後に「あ」をくっつけなければいい。でも、二つの文字で書いてあるからといって、読む時には、ひとつひとつ区切って「は・あ・と」と読むのではない。「は」の長い音は「はの後に「あ」をつけるという《約束》があるのだから、「はあ(ハー)」とのばして読む。

あ段はどんな音があったらろう？

あかさたなはまやらわ



がざだば

あ段のながい音がつく単語をさがそう。

らあめん おかあさん さあかす

あ段のながい音がつく単語をしめして、ながい音をたしかめる。

すかあと ぎたあ

みじかい音には「・」、ながい音には「-」をつけさせる。

まとめ

あ段のながい音は、あ段の文字に「あ」をつけて書く。

二つの文字をつかって書くが、読む時は一つの音だ。

練習

あ段のながい音を読む

あ段のながい音を書く

みじかい おと	あ	か	さ	た	な	は		ま	や	ら	わ
ながい おと	ああ	かあ	さあ	たあ	なあ	はあ		まあ	やあ	らあ	わあ
みじかい おと		が	ざ	だ		ば	ば				
ながい おと		が	あざ	あだ	あ	ばあ	ばあ				

ここでの長音の指導は、特に工夫もなされていない、エキスのようなものです。ある意味では、原則を示したものです。

これまで、多くの1年生の担任は、長音を1年生に理解させるために様々な方法を使ってきました。その中の典型が右絵です。

あ段には「あ」のお母さん(母音)がいて、あ段をのばす時には、「あ」のお母さんがお手伝いにくるのだ、と説明します。たとえば、

「はあと」の場合、「ハー」と「は」の音をのばしたとき、「あ」の音が聞こえてくることに注目させます。そこで、「ハー」の「-」の部分「あ」のお母さんがやってきて、お手伝いしてくれる、というようにするのです。実際には、「ハー」は一音節ですから、一つの音です。でも、お母さんの手助けがなければ、「は」だけでは「ハー」という音を表せないことを教えます。

そして、「え段」「お段」の長音の時には、お母さんが留守をしていた、というシナリオを設定するのです。

1年生では、このように絵をつかった指導などが効果的です。実態に合わせて、さまざまな工夫をしてみましょう。



え段

の指導

右の絵を見せて、何かと問う。

とけい

せんべい

ぼたん「・」とぼう「-」で表記させる。

みじかい音とながい音を確認する。

とけい...みじかい音「ト」 ながい音「ケー」

せんべい...みじかい音「セ・ン」 ながい音「ベー」

「ケー」「ベー」は、何の段の音がのびているか考える。

「え段」

のばすと、「え」になる

書くときにはどう書いたらいいか考える。

「けえ」「べえ」

*ここまでの流れでいくと、当然、このように答えることが予想される。

一方で、すでに表記を知っている子からは、「トケー」は「とけい」と書くという指摘もあるかもしれない。

今までどおりなら、「トケー」は「とけえ」と書くことになる。しかし、え段の場合は、「え」のかわりに「い」を書くという《やくそく》になっていることを教える。

たしかめ

「トケー」はどう書く？ 「とけい」

「センベー」は？ 「せんべい」

書くときには、「けい」と書くが、音は、「ケー」とのばした一つの音であることをおさえる。けっして、「と・け・い」とはならないことをおさえておく。

え段の音は、どんなのがあったらう？

えけせてねへめれげぜでべべ

え段のながい音がつく単語をさがそう。

せんせい せいと せいふく ていぶ

え段のながい音がつく単語をしめして、ながい音をたしかめる。

ゆうれい ていぶる

みじかい音には「・」、ながい音には「-」をつけさせる。



まとめ

え段のながい音は、え段の文字に「い」をつけて書く。

二つの文字をつかって書くが、読む時は一つの音だ。

練習

え段のながい音を読む

え段のながい音を書く

みじかい 音	え	け	せ	て	ね	へ		め	え	れ	え
ながい 音	えい	けい	せい	てい	ねい	へい		めい	えい	れい	えい
みじかい 音		げ	ぜ	で		べ	べ				
ながい 音		げい	ぜい	でい		べい	べい				

「お母さんの絵」を使って指導してきている場合

え段だから、ここのお母さんは？

「え」のお母さん。

だから、「トケー」は「とけえ」と書く。

ところが、今日は、「え」のお母さんは出かけていて、いない。そこで、近所の「い」のお母さんがやってきて、助けてくれた。そこで、え段のながい音は、「え」の代わりに「い」を書くことになった。だから、

「トケー」は？ 「とけい」

「センベー」は？ 「せんべい」

「い」のお母さんは、「え」のお母さんの代わりだから、「とけい」と書いてあっても、「と・け・い」と読むわけではない。「とけい」は「え」のながい音があるから、読む時は「トケー」と読む。

「お段」の場合も、「え段」と同様に進めます。「お」の代わりに「う」をあてます。そして、発音は、「そうじ」と表記しても「ソージ」となることをおさえます。そのことをしっかりと定着させるためにも、「・」と「-」で短音と長音をあらわすことは大切です。

ただ、現在では、一般的に、「とけい」を「と・け・い」と読んだり、「そうじ」を「そ・う・じ」と読んだりすることも多くなっています。日本語の長音の表記と発音の揺れが曖昧さとなってあらわれているのですが、1年生には、原則を教えるおかねばなりません。

「え段」「お段」の長音の特別な書き方

「え段」「お段」の長音の表記には、発音どおりの表記をするものがあります。最後に、それらの特別な表記をするものを取りあげます。

「え段」のながい音は、どう書くのだったか。

「センサー」「セート」は？ 「せんせい」「せいと」

「え段」のながい音は、「え」のお母さんのかわりに？

「い」のお母さんが助けにくる。

ふつうは、「え」のかわりに「い」を書く。ところが、「え」のお母さんが帰ってきて、「え」のままつかう言葉がある。

「ねえさん」「ねえ」「ええ」

こんなふう覚えておくとよい。(右を掲示する)

(みんなで読む)

ええ、	す	そう	ねえ	ねえさん
そうよ	ごい	ねえ	そ	うでし
	ねえ	え	う	しょう

「お段」のながい音にも、同じようなことばがある。

ふつう、「お段」のながい音がある言葉は、どう書くのだったか。

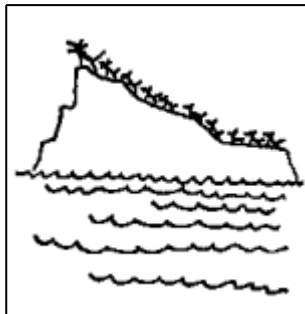
「ガッコー」「オーサマ」は？

「がっこう」「おうさま」

「お段」のながい音は、「お」のお母さんのかわりに？

「う」のお母さんが助けにくる。

ふつうは、「お」のかわりに「う」を書く。ところが、「お」のお母さんが帰ってきて、「お」のまま使う言葉がある。(右絵を提示する)(この絵を見せて、何の絵か考えさせる)



この絵の話だ。

(右を掲示する)

このお話をおぼえよう。

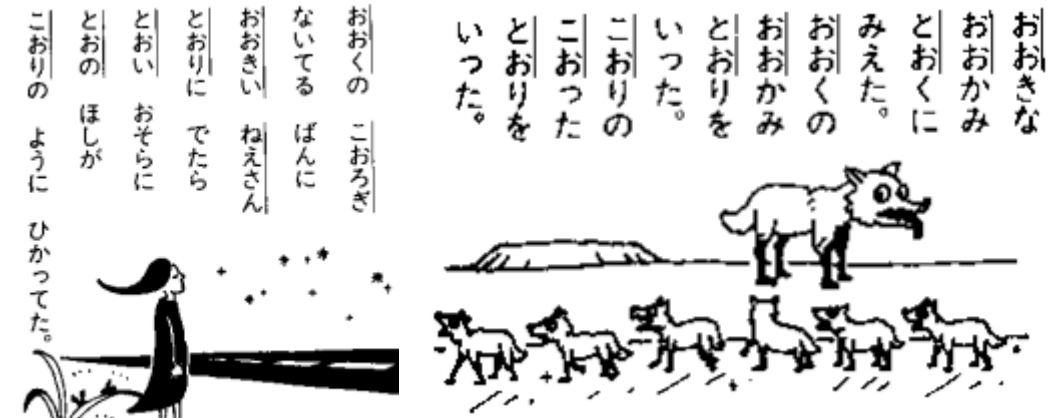
(みんなで読む)

そのほかに、「こおろぎ」「ほおずき」もある。

練習 (この時間であつかった単語と他の単語をまぜて提示し、表記を考えさせる)

ほおずき	こおろぎ	とお	とお	お	お	こ	お	と
		お	お	お	お	お	お	お
		つ	つ	み	の	の	の	の
		た	つ					
						う		
						え		
						を		

*先に紹介したものの他に、次のようなものもあります。



(「あいうえおあそび」 太郎次郎社より)

大切なのは、特別な表記のしかたをきっちりと覚えさせることです。この中の多くは、このあと漢字表記にかわり、かな表記からはかくれてしまいます。そのため、1年生のこの時期にちゃんと覚えさせておかなければ、高学年になっても「おねいさん」と書いたり「とうり」と書いたりする子があらわれます。パソコンを使うようになって、再び意識する表記の問題になります。

*長音表記のこと

仮名遣いは、1986年の内閣告示として発表された「現代かなづかい」にそって表記するようになっていきました。それによれば、「え段」の長音は「え」を添えて書く、ということになっています。つまり、このテキストで特別な表記とした「おねえさん」「ええ」が原則ということになります。そのため、教科書でもそれにそって、まずは、「おねえさん」「ええ」がとりあげられ、「せんせい」「とけい」は特別な表記の仕方として位置づけられています。

しかし、実態としては、「え段」の長音は「い」をあてて表記するのが圧倒的に多数です。そこで、1年生の入門期では、「え段」の長音は「い」を書くということを原則として扱うようにしています。

なお、言語学者によれば、文科省は「せんせい」「とけい」は「え段」の長音と認めていないようだ、とのことでした。そのため、外来語の「ページ」「ノート」などは「べえじ」「のあと」とひらがな表記する教科書もあらわれてきています。

ここにも、長音の表記と発音のゆれがあります。

*「お」をあてて書く「お段」の長音

「お段」の長音には、先に紹介したもののほかに、次のようなものがあります。ただ、1年生にはむずかしい単語なので、以後の学習の中でおさえていく必要があります。これらは、旧仮名遣いで「こほり」のように「ほ」をあてて表記していたものです。

- おおやけ(公)・ほのお(炎)・おおせ(仰せ)・とどこおる(滞る)・もよおす(催す)・いきどおる(憤る)・おおよそ・おおむね・おおう(覆う)・ほお(頬・朴)・いとおいしい・しおおせる